会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成26年9月25日(木曜日)		開 議 午前 10 時 00 分
			閉 議 午後 3 時 25 分
出席委員	齊藤 中澤 福井 馬場 小島 菱田 日高 湊		
出席理事者	[産業観光部]山田部長、内田農政担当部長、[ものづくり産業課]野々村課長、三宅副課長、[観光戦略課]奥村課長、[農林振興課]堤課長、内藤副課長、[国営事業推進課]谷口課長、上田事業担当課長 [まちづくり推進部]古林部長、橋本土木担当部長、[都市計画課]森課長、山内主幹、[都市整備課]伊豆田課長、[桂川・道路整備課]並河課長、[土木管理課]柴田課長、[建築住宅課]中西課長		
出席事務局	三宅主任		
傍聴者	市民 名	報道関係者 名	議員1名(西村)

会 議 の 概 要

10:00

- 1 開会（委員長あいさつ）
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査（事務事業評価選定項目を除く）

[産業観光部入室]

平成25年度亀岡市一般会計決算認定（第10号議案）
 所管分（商工費～災害復旧費）
 ・産業観光部所管課長、順次説明（歳出・歳入一括）

～ 10:50

[質疑]

< 福井委員 >

P169、観光推進経費に係り、観光戦略課としてどのように観光戦略を立てているのか。

< 観光戦略課長 >

観光戦略課として2年経過する中で、観光客のニーズを踏まえ、亀岡の身近な自然を生かした観光振興に取り組んでいるが、実際に観光消費や観光関連企業のニーズに結び付いているのかどうか疑問に考えているところもある。農業体験や日本料理体験も好評があり、今後は、京阪神の都市圏から少しでも足を伸ばしてもらえる田舎の観光地としてその振興に努めていきたいと考えている。

< 福井委員 >

スマートフォンアプリ開発に係り、どのように検証しているのか。

< 観光戦略課長 >

アンケートを実施したが、回答は200件程度であり、具体的な検証はできていない。ただし、るるぶ特別編集改訂版とセットで制作したものであるため、本来のアプリ制作費用の半分以下で収まったことや全国で宇都宮、亀岡のみが、るるぶのアプリを開発したということを誇りにしている。また、るるぶ特別編集についても亀岡が府下で1番最初に制作して、その後、宇治、福知山、舞鶴と追従し、今回新たになるるぶ京都西が制作されることから、その成果は大きいものと評価している。

< 福井委員 >

指標がないので評価しにくいですが、もっと活用できる方策を考えてほしい。

< 小島委員 >

P166、亀岡商工会議所事業補助経費の中で、かめおか元気企業プロジェクト事業補助金として、新製品・技術開発支援助成を行った結果、どのような成果があったのか。

< ものづくり産業課長 >

新製品については、主に菓子類の食品関係、技術開発支援については、多岐にわたっているが、9社に助成し、その結果、5社程度が商品化されている。販路開拓として5社に助成し、東京、名古屋での出店など幅広い活動を支援した。

< 湊委員 >

P166、企業立地奨励金に係り、エルマ、中央技研工業はどこにあるのか。

< ものづくり産業課長 >

中央技研工業は西別院町、エルマはグンゼの工場である。

< 湊委員 >

本市は地理的にも要件が整ってきており、企業誘致を推進するうえで、非常に重要な局面にあると考えているが、他の企業誘致を推進する都市との差はどのようなところにあるのか。また、企業のニーズはどのようなところにあるのか。

< ものづくり産業課長 >

特に今後、城陽市でも大規模な工業団地の造成が進んでいることから競争が激化すると思われる。本市では高速道路網の整備により、企業からも脚光を浴びており、中でも食品関係の企業立地を希望しているが、やはり排水を多く使うことから、下水道料金の設定が高めであること、また、立地において商業・雇用面への活用が好条件であることから土地単価が高めであることが挙げられる。ただし府北部方面では人材確保が困難であることから、大阪、京都からの通勤圏である本市は好立地であると考えており、今後も京都府と連携しながら企業立地を推進していきたい。

< 湊委員 >

観光推進事業に係り、光秀まつりの観客の動向は。

< 観光戦略課長 >

JRに確認したところでは、その日の乗降客は2、3千人多いように聞いているが、どこから来られているのかまでは把握できていない。今年の亀岡祭では、アンケート調査を実施する予定である。

< 湊委員 >

観光推進事業全般を見て、新たな事業等、色々と工夫されているが、観光の魅力はやはりおいしい食べ物であることから、何よりもまずは、食べ物店の誘致について、商工と連携して進めることにより、その他の観光施策はそれに付随してくるものと考えが。

< 観光戦略課長 >

そのとおりであり、今後、関係部課と連携して取り組んでいきたい。

<馬場委員>

電線類地中化の戦略は。また、文化資料館の構想等を含め、まちづくり推進部や教育委員会等とどのように連携して観光戦略を立てているのか。

<観光戦略課長>

電線類地中化は案外、寂しくなるような印象を受けるものであり、その事業費用も莫大である。ただ歴史街道は立派に整備されており、誇りに感じているが、観光サイドとしては地中化は考えていない。

<産業観光部長>

観光は、本来良いところを魅せるものであることから、まちづくりに大きく関わるものである。産業観光部では横の連携も指摘されているが、少しずつ良くしていこうと取り組んでいる。地中化に関しては、三宅町の部分的な箇所について鉾巡行に支障があるため、文化財サイドとともに要望しているが、経費の負担について、決断が必要となる。

まちづくり推進部との連携に関しては希薄なところが現実的にあり、本来的には、企画サイドも含めまちづくりをどうするのかということになるが、安全・安心のために予算はとれても、観光のためとしては、厳しいところがある。

<観光戦略課長>

市内の飲食店が集まり、連担するようなまちをつくりたいが、既存の商店街では難しい。おかげ横丁のような、新たな場所を設けたいと望んでいる。

<馬場委員>

亀岡の観光においてネックとなるのは、やはりトイレと昼食場所であり、ネットワーク化すれば十分対応できるものと考えている。ぜひ検討願いたい。

P170、大河ドラマ誘致活動事業経費に係り、大河ドラマよりも朝ドラ等、多角的な攻め方ができないものかと考えているがいかがか。

<観光戦略課長>

よい題材があれば提供願いたい。

<馬場委員>

P172、林道災害復旧に係り、日常的なパトロール、産業廃棄物投棄に関する対策をどのようにしているのか。

<農林振興課長>

森林組合の巡視員が年間200日程度パトロール、地元組織等の日常的な維持管理の中で情報収集を行っている。

<観光戦略課長>

環境政策課において、環境保全の業務としてパトロールを行っている。

<菱田委員>

P167、地域活性化対策経費に係り、スローフードツアーや丹波栗菓子フェア等、各事業は単発的にはよい事業であるが、一体のものとしての事業効果を得られるような仕掛けづくりが必要と考えるがどうか。

<観光戦略課長>

そのとおりである。観光サイドとしても、やる気のあるところに補助する手法により、相互に結び付くような事業展開を図りたいと考えている。

<ものづくり産業課長>

丹波栗にスポットを当てて取り組んでいるが、市内菓子店からの需要を踏まえ、商工サイドからも生産者にアプローチし、マッチングできるように取り組んでいきたい。特に今年度から食産業振興プロジェクトをスタートしているので、何とか形あ

るものにしていきたいと考えている。

<日高委員>

オープンガーデンの期間が短く、観光の機会が限られている。自然や花へのニーズは高いと思っており、1年中自然が楽しめる観光と食事場所の組み合わせを検討し、普及できるように努めてほしい。要望。

<観光戦略課長>

オープンガーデンについては約60人余りで実施されており、食事つきでバスで回れるようにして好評を得ている。個人宅が対象であることから、期間の延長等は調整が必要である。その他、彼岸花、コスモス、ききょう等、様々な資源があることから、1年を通じて観光を楽しめるよう努めていきたい。

<中澤副委員長>

P166、亀岡商工会議所事業補助経費のうち、経営支援員の配置について、成果と今後の見通しは。

<ものづくり産業課長>

1人の雇用であり、市内事業所を回り、経営手法の相談や府・市の制度の紹介等を行っている。今年度は、京都商工会議所のOBを経営支援員として配置しており、本市職員と連携して他の事業と合わせて取り組んでおり、今後の成果に期待している。

<中澤副委員長>

観光戦略に係り、自然や食農等、本市の一番の魅力についてその戦略がほとんどなされていないのが大きな問題であり、それを城下町につなげていく組み立てが必要である。ぜひ、課長が冒頭で述べられたことを具体的な戦略として組み立ててもらうよう要望しておく。

P172、災害復旧に関して、不用額は入札残ということで理解してよいのか。

<農林振興課長>

25年度の災害復旧については、事業者の取り合いで、実施の確保が非常に困難であった中を何とか対応したものであり、若干、測量設計において平面の作成だけを行った箇所等があり、その分で不用額が生じた分があるが、そのような状況であったことを理解願いたい。

<中澤副委員長>

平面図だけを作成したということは、そのほかに係る分は職員が対応したということか。

<農林振興課長>

査定に向けた時間の制約上、そのような状況であった。

<中澤副委員長>

今後に向けては、土木部門と連携して対応していく視点も検討すべきである。

<齊藤委員長>

全体的な戦略についての意見、指摘があったが、理事者の答弁を聞いていて、組織が一体となっていないことを憂慮した。トップの方針に基づいた立場で職務に精励していただきたい。

<産業観光部長>

25年3月にものづくり産業振興ビジョンを策定し、それに基づき、今年度、食産業や商店街活性化の計画を組み立てていくが、観光関係については事業を行っているものの、連携がとれておらず、落としどころが欠落している部分があるので、年度の後半、整理して、次年度につなげていけるよう努めていきたい。

[産業観光部退室]

~ 11 : 50

[休憩]

13 : 00 ~

[まちづくり推進部入室]

・まちづくり推進部長あいさつ

平成25年度亀岡市一般会計決算認定（第10号議案） 所管分
（総務費～土木費・3項河川費まで）

・まちづくり推進部所管課長、順次説明（歳出一括）

~ 13 : 37

[質疑]

< 福井委員 >

P175、公衆街路灯助成金に係り、自治会への補助金の支払いはいつ頃に行われているのか。

< 土木管理課長 >

4月時点での電気代を基準として、通常12月又は年明けに行っている。

< 福井委員 >

なぜ12月頃になるのか。

< まちづくり推進部土木担当部長 >

4月に積算して、自治会から上がってくるのが6月中旬以降となり、そこから集計を行うこととなる。それをもって当該予算の不足分を9月補正で対応し、最終精算ができて支払いができるのは12月頃となる状況である。

< 福井委員 >

P184、桂川高水敷土地利用事業経費に係り、保津橋上流部のグラウンドも当該土地利用計画に含まれているのか。

< 桂川・道路整備課長 >

かわまちづくり計画については、京都府の河川整備に沿ったエリアを対象としており、全体計画はその範囲で策定しているものである。よって範囲外となる。

< 馬場委員 >

事項別明細書P175、道路維持費、道路新設改良費、橋梁維持費に係る明許繰越分について、業務に十分対応しきれていないものと思われるが、どのような体制で対応するのか。明許は特別な事情がない限りできないことを原則とし、対応できる体制づくりが必要と考える。

< まちづくり推進部土木担当部長 >

25年度は、主に災害復旧への対応に追われたこと、また施工事業者においても災害復旧と重なり辞退が生じたため、業者決定に至らない状況にあったため、一部事業についてはやむなく繰越をしたものである。

< 桂川・道路整備課長 >

道路新設改良事業においては、用地関係や関係機関協議等の遅れにより、工事の年度内完了が困難な状況から繰り越したものであるが、繰り越した事業については、

課題事項を解決して次年度で確実に完了できるようにしている。

<馬場委員>

職員体制について、できるところは相互に協力して発揮できるようにしてほしい。

<まちづくり推進部長>

これまでの道路河川課を、用地関係、維持修繕関係とに分け、地域要望により応えていけるよう組織再編し、さらに今年度からは河川維持係を土木管理課内に新設し、災害等に機動的に対応していけるような体制を構築しており、組織体制としてはその充実強化に努めている。

<湊委員>

計画に対する達成度は、どのように評価しているか。

<まちづくり推進部長>

行革の進行管理における目標達成度としては、ほぼ計画どおり達成していると評価しており、一部繰越については、年度をまたぐが、所期の目的は早期に完了するように努めているところである。

<湊委員>

予算上計画した事業に対する達成度の観点で訊ねている。

<まちづくり推進部長>

用地補償を伴う事業については、計画どおりに執行できない部分もあり、その意味では100%達成したことにはなっていない。

<中澤副委員長>

P176、自転車等駐車場経費に係り、各駐車場の利用率の動向は。

まちづくり推進部における事業の組み立ての基本的な考え方は。

<まちづくり推進部土木担当部長>

利用率については以下のとおりである。

駐車場名	平成24年度	平成25年度
J R 亀岡駅前	54.8%	57.0%
J R 馬堀駅前	38.2	38.2
J R 並河駅前	99.9	98.6
J R 千代川駅前	32.3	32.5
J R 亀岡駅北口	90.5	87.3

<まちづくり推進部長>

都市計画マスタープランに基づき、主要な幹線道路、河川改修等を進めている。

生活に密着した道路補修等については、地域の声を十分聴く中で、予算の範囲内で一つでも要望に応えていけるように努めている。

<中澤副委員長>

高水敷の土地活用に係り、その面積は。また、利用制限はあるのか。

<まちづくり推進部長>

使用できる範囲としての面積は、延べ21haである。

<桂川・道路整備課長>

利用制限については、当然、流水の妨げとなる固定物や連続する植栽等が考えられ、流下能力を阻害しないことが前提となる。整備後の利用制限について、協議会で議論されているところである。左岸エリアでは、色々なイベント等の活用があり、需要があることから、昨年度、使用規則を設けて自由使用を原則として一定の許可を要する管理体制をとっているところである。

< 福井委員 >

月読橋と同様、使用料等の設定も視野にできるのか。

< 桂川・道路整備課 >

河川管理者からの占用を受けて施設管理を行う場合、使用料等を設ける条例を設置することとなる。

~ 14 : 03

[休憩]

14 : 10 ~

(土木費・4項都市計画費 ~)

・まちづくり推進部所管課長、順次説明 (歳出一括)

~ 14 : 37

[質疑]

< 湊委員 >

P 189、公園緑地事務経費に係り、防犯カメラ設置後の効果は。

< 都市整備課長 >

大井西部公園については、設置以降、一切被害は生じていない。

< 湊委員 >

P 191、下水道事業会計繰出金の説明を。下水道事業として元金臨時交付金をとれないのか。

< 都市計画課長 >

地域の元金臨時交付金を充てられた箇所があったため、そこへ一部充当したものである。繰出金については、市で一括して地方交付税で受けた分を下水道会計へ繰出している。

< 馬場委員 >

P 187、大井町南部土地区画整理組合への補助事業費に係り、保留地処分の協議の状況は。

P 188、中矢田篠線の街路事業に係り、枚方亀岡線との交差点の安全対策の協議の状況は。

< 都市整備課長 >

京都縦貫道下の造成はほぼ完了しており、現在、保留地1件売却済みであるが、残っている大きな部分について、売却に向けて鋭意取り組んでもらっている状況である。

< 桂川・道路整備課 >

交差点が広いため、公安委員会との協議により歩道を確保してコンパクトな交差点にすること、また、信号機の設置等が方向性としてあり、京都府や地元等との協議を進めている状況である。

< まちづくり推進部長 >

枚方亀岡線と国道9号との交差点改良に関しては、粘り強く国へ要望しているところである。

< 菱田委員 >

P 189、公園管理業務に係り、その財源に行財政改革支援等特別交付金が含まれ

ているが、当該交付金の概要、実績は。

< 都市計画課長 >

行革に取り組む市町村の単費事業に対し交付されるものであり、亀岡運動公園は長寿命化計画を立てて取り組む趣旨から交付対象となったものであり、公園事業においては今回初めての交付であり、今後継続的に交付されるかどうかは不明である。

< 福井委員 >

P 1 9 4、安全なわが家の耐震化促進事業に係り、リーフレット制作等による耐震改修件数の増加は。

< 建築住宅課長 >

平成 2 5 年度当初予算 1 0 件の見込みであったが、リーフレットの周知等により 1 4 件に増加したため、補正予算で対応した。また、耐震改修ではなく新築にされた方も別にあり、例年よりも件数の増加が図られたものである。

< 福井委員 >

今後も周知に努め、効果的な施策の展開を期待する。

< 中澤副委員長 >

P 1 8 6、緑の基本計画の改訂に係り、どのような手法で改訂を行ったのか。また、今後における考え方は。

< 都市計画課長 >

計画策定については、業務補助としてコンサルに発注した。策定に当たっては、学識経験者や市民団体の代表者等で委員を構成し、検討会議で意見聴取を行った。今後、主に公園等の設置に関しては、当該計画に基づいた整備を行うこととなる。改定の見直し時期等の定めはないが、その時々状況を踏まえて必要に応じて精査していきたいと考えている。

< 中澤副委員長 >

今後の進行管理をしっかりと持っていないと、作っただけで終わってしまうことになりかねないが、そのしくみは。

< 都市計画課長 >

具体的な進行管理については、計画上位置づけていない。各施策の基本としての位置付けとしている。

~ 1 4 : 5 5

(歳入一括)

・まちづくり推進部主管課長、順次説明

[質疑]

なし

~ 1 5 : 0 5

[まちづくり推進部退室]

[休憩]

1 5 : 1 5 ~

4 事務事業評価

< 齊藤委員長 >

明日の事務事業評価について、事務局の説明を求める。

[事務局、事務事業評価資料配付。資料内容及び評価の流れ等を説明]

<齊藤委員長>

それでは、明日の事務事業評価について、よろしく願います。<了>

~ 散会 15 : 25

(散会后、常任委員会に切替)